

KBC杯高校ハンド

ハンドボールの第12回KBC学園杯争奪兼第46回県高校春季選手権(主催・県ハンドボール協会、共催・KBC学園、沖縄タイムス社、県高体連)最終日は20日、那覇西高校体育館で男女決勝を行い、女子は浦添が那覇西を20-15で破って3年ぶりに優勝した。男

子は那覇西が北中城を25-19で下し、4連覇した。

3位決定戦は女子が首里、男子是那覇西が制した。男女上位3校と、全国高校選抜大会(24~29日、愛知県)に出場する男子興南、女子コザを合わせた男女各4校が県高校総体シード権を獲得した。

【男子】
▽3位決定戦

那覇西 40-16 普天間
▽決勝

那覇西 25(13-6)19 北中城

【女子】

▽3位決定戦

首里 18-10 那覇西

▽決勝

浦添 20(11-4)15 那覇西

浦添、3年ぶりV

ハイライト 堅守速攻 猛追かわす

女子は全員ハンドを実践した浦添が那覇西の猛追を抑え、20-15で3年ぶりの優勝を勝ち取った。

昨年12月に九州選抜県予選で準優勝し、九州切符をつかんだもののコロナ禍で中止。ライバルのコザが全国選抜出場で不在の中、頂点だけを狙って大会に臨んだ。前半はスタートダッシュに成功し、11-4と大きくリードした。

後半はポストの平良萌笑や左45度の新垣未来主将らが厳しいマークに遭った。退場者が続いてF/Pが2人少ない4人となり、一時は3点差まで迫られた。だがここから持ち味の堅守速攻を發揮し、振り切った。

國吉駒千がチーム最多の5得点、新垣主将と上田朱華が4得点し、計8人で20点を積み上げた。右の上田朱華と、ポストの安田千紘の成長も多彩な攻撃を生んだ。新垣主将は「九州大会中止で落ち込んだこともあったが声を掛け合い、手を抜かないで練習をしてきた」と喜んだ。

平良は「もっと積極的に強い守備を身に付けたい」と、県総体でコザへのリベンジを見据えた。(溝井洋輔)



女子決勝 浦添-那覇西 前半、浦添の玉城二葉がシュートを放つ=那覇西高校体育館(名護大輝撮影)



女子優勝の浦添

男子決勝 那覇西-北中城 前半、那覇西の嘉数翔天がドライブをかわしながら3点目のシュートを決める



守備注力 エース封じる

スポット

男子是那覇西が堅守から攻撃力を發揮し、北中城に25-19で勝利した。

両校は昨年12月の九州選抜県予選準決勝で顔を合わせ、その時は1点差で那覇西が残り勝っている。今大会の那覇西はエース田場心大を負傷で欠いており、より守備に注力した。最大のポイントは、北中城の絶対的エース濱比嘉琉心を封じること。その役目を大城樹ノ介が担い、チームの期待に応えた。カットインを自由にさせず、

警戒するロングシュートには手を挙げて圧力をかけ続けた。大城は「自分が止めないと流れを持っていかれる。しっかり対策して抑えることができてよかった」と手応えを語った。

後半に攻めのバランスを崩すこともあったが、試合の中で修正。相手を引きつけた上でのパスや、1対1の局面で積極的に仕掛けた。黒島太貴主将は「まだ油断してしまう場面があるのは修正したいが、攻撃はすごくよかった。エースの田場が戻ってきたら全員の力で県総体を優勝したい」と力を込めた。

那覇西、男子4連覇



男子4連覇の那覇西